

議 事 の 経 過

議事は、会議次第に沿って進行された。

「議題」については、議題(1)(2)を一括して事務局から説明後、出席者による討議が行われた。(2)について採決を行い、「川越市産業振興ビジョン（令和4年度～令和7年度）」を原案のとおり策定することになった。続いて、(3)について事務局から説明後、出席者による討議が行われた。(3)についても採決を行い、原案のとおり答申することとなった。

討議の概要は、以下のとおり。

○ 議 題

- (1) 前川越市産業振興ビジョンの実績と評価について
- (2) 川越市産業振興ビジョン（原案）について

事務局が資料に基づき説明。

[発言内容]

（会 長）いろいろとご説明いただいた。前ビジョンの実績と評価は 43 ページから記載されているが、新型コロナの問題はまだ進行中であり、そういう中で産業構造の変化や転換が生じていることから、数値目標や取組状況については、達成が難しい状況もあったと思う。SDGs 等々を含めた新たな動きや社会的な課題については、新たなビジョンの中にも引き継がれていくものと思う。

また、基本理念のもとに 4 つの基本目標が設定されており、商業、工業を中心とした産業全体の活性化に向けた課題が整理されている。施策の推進については 52 ページ以降に基本施策、施策内容、推進事業という形で記載されている。

基本目標 1 は「中小企業支援による持続化と就労環境の整備による雇用の安定」となっており、中小企業の経営基盤の強化、求職者の支援と就労環境の整備、多様な働き方の支援を基本施策として掲げている。

基本目標 2 は「商店街の魅力の向上とにぎわいの創出」となっており、商店街と個店の活性化、魅力ある商店街の形成、効果的な支援に向けた取組を基本施策として掲げている。

基本目標 3 は「企業誘致の推進等による産業競争力の強化」となっており、企業誘致の推進、販路開拓・拡大の推進、環境の変化に対応する取組への支援を基本施策として掲げている。

基本目標 4 は「産業間連携と地域資源の活用等による新たな価値の創造」となっており、産業間連携の推進、地域資源の活用、関係機関との連携を基本施策として掲げている。

今後は、この数値目標や推進事業の取組状況について、審議会として見守っていく必要があり、推進するにあたっての助言等を行うことが求められると思う。これまでの審議会の中でみなさまにいただいた意見は概ね反映していることから、これまでの検討経過を踏まえた意見や感想、答申を行うにあたっての意見、ビジョンを推進するにあたっての助言などをいただければ。今後は、進捗管理や見直しのため、年 1 回は審議会が開催されるので、そのあたりも踏まえていただければと思う。

(委員) これまでの議論をよくまとめていただき、異議はない。

今後は、キャッシュレス化が大事だと思っている。日本のキャッシュレス化は 26.8% に達して今後も堅調に推移していくと書いてあるが、これに関してはもう少し積極的にやらなければいけないと考えている。韓国は 94.7%、中国は 77.3% で、日本は非常に遅れている。企業にとっては、これが DX 化や情報化を進めていく契機となるのではないかと思う。単に見守るのではなくて、DX 化やキャッシュレス化をより進めていくために目標値を設定するなど、積極的な取組が必要だと考える。

また、ビジョンをどのように伝えていくかが大事。意見募集を市の広報やホームページで行ったとのことだが、意見は 0 件であった。今後は、SNS なども活用した広報が非常に大事になっていくのではないか。周知の仕方を考えて、いかにこのビジョンが市民の中に浸透していくか、今後この会議の中でも議論していければと思う。

(委員) しっかりとまとめていただき、大変ありがたいと思っている。

私からは、大きく 2 点。1 点目は、社会環境の変化が非常に激しいと感じている。コロナもそうだし、2 月にはロシアのウクライナへの侵攻による原材料価格の高騰や在庫の不足など、川越でも影響が出ていると思う。また、古くからのホテルや飲食店の閉店、病院の閉院など、じわりじわりと変化が生じてきている。一方で、その土地を有効活用しようと大型マンションが建築や計画されている。地元の私たちからすると、今まで聞いたことがないような価格で売買されているようで、これも大きな社会環境の変化かなと。いい面もあるし、悪い面もあるのかなと思う。ビジョンは 4 年間の計画だが、経済や時代の変化に合わせて取り組んでいくことも大事だと思う。

2 点目は、説明の中で企業誘致の話があった。市としても、企業誘致を推進していくと聞いており、よそへの流失防止も含めて積極的にやっていただきたいと思う。

(委員) ベースとなるものはしっかりできた。これからの実効性が大事になると思う。

コロナで環境が変わって、観光客が半減して、回復基調にあるとはいえ、観光客の多くが若い人たちになり、川越らしいものよりも若い人向けの商品が売れていて、本物の価値が伝わらないという環境にあると思われる。観光客をターゲットにすることはもちろんだが、一方で地域の住民にしっかりと愛されるような商品や街づくりも必要。2 つの軸でやってもらえるといいと思う。

「川越ならでは」や「地域に愛される」ものを作るときには、農商工連携など地域の人たちの連携が必要で、行政も含めた体制を作れるといいのかなと思う。その際、事業者には自社だけでなく地域をいかに活性化するのか、地域の住民がいかに参加してくれるのかという視点を持ってもらうことが重要。それが、行政にとっても地域の住民にとってもいい街づくりで、産業の振興にもつながっていくことになると思う。

(委員) カーボンニュートラルや CO₂ 削減などに関して、省エネルギーの仕様の建物の建設も進んでいる。具体的には「ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略」と呼ばれるもので、快適な室内環境を実現しながら、消費するエネルギーをなるべく少なくする建物。そういう仕様にすることで建設コストは割高になるが、電気量などのエネルギーが削減されることで、長期的にみれば元が取れると聞いている。こうした取組がさらに進むよう、本制度やこれに活用できる国等の補助金について、周知していただければと思う。

(委員) ビジョンは、大変よくまとまっていると思う。

DXであるとかSDGsであるとかカーボンニュートラルであるとか、今話題になっているところで、企業としては取り組まなければならない大きな問題だと思う。

この先4年間でどうなるのか分からないし、時代や社会がどんどん変わっていくものなので難しいと思うが、もう少し魅力あるというか先を見込んだ目標設定というものができれば、もう少し違った形で取り組まれるのかなと思う。

例えば、ものづくりブランドの認定については、当初は各社から応募があったが、最近是非常に少なくなっている。ちょっとマンネリ化しているとも思うので、もう少し違った角度でものづくりブランドを訴えることができると、新たな企業や商品が出てきて川越のブランドとしてPRできるのではないかな。

(委員) 内容に関してはよくできていると思う。

関係者の役割について、川越市がハブになり、経済団体、大企業、大学、市民などがその周りに配置されている。大きな組織の対極にある小さなコミュニティや市民などが新しい革新的なことをやっているということもあるので、アンテナの高い市民や民間を活用し、各分野のキーマンを見つけて、実現に近づけてほしい。

マッチングについても、需要と供給をうまく結びつけることでSDGsが実現されることもある。それぞれの関係者が、このことを頭に入れていただければと思う。

(委員) このビジョンをどうやって浸透させるのか、これは課題であると思う。

人口減少の話があったが、夫婦共働きや片親などにより子どもを育てる環境が整っていないという状況も見聞きしているので、そういう観点もこのビジョンを推進していくうえで必要だと思う。

(委員) 今回、意見公募をして1件も意見がなかったのは気になる。賛成にしろ反対にしろ、リアクションがなかったということは、今後のやり方を考える必要がある。

このビジョンは、皆さんの意見が反映されてまとめられており、SDGsやカーボンニュートラルなど諸々の新しい要素も入っていて、現時点でいい案ができたと思っている。ただ、市民や企業の皆さんがあまり関心を持ってきていないところを、どうやって浸透させていくのかをこれから考えなくてはいけないと思う。

施策を進めていくには、行政だけが頑張ればできるものではなく、いろいろな人たちが関わり、連携しあって進んでいくものだと思う。連携を深めていくためにはどういう仕組みづくりをするのが、これからの課題だと感じた。

また、ちょうど新しい概念が出てきたばかりのタイミングであり、これからどう動いていくか分からない部分もある。2年後くらいには新しい方向性が出てくるかもしれないので、その場合には中間的な検証や見直しなども必要になると考える。

(委員) 川越市の活性化を考えると、観光の取組は重要である。今はコロナで観光客がすごく少ないが、ここが繁盛してくれば周りも自然と繁盛してくるのではないかなと思う。新しいホテルもできているのでそれらと連携し、観光客の方が一泊しながら川越で農業体験やものづくりの体験などをしてもらい、また川越に来ようと思える環境を作っていけたらと思う。

また、他市から入ってきて、少し売り上げが悪くなると引き上げてしまうお店がある。そういう状況も見ているので、このあたりも対応していただければと思う。

(委員) 産業振興を進めるにあたり、企業誘致を進めることは大事である。産業のボーダーレス化が進んでいるので、工業にとらわれずシンボルとなるような企業を広く誘致していく。待っているのではなく、より積極的に来てくださいと引っ張ってくるのが重要である。ユニコーン企業と言われる設立 10 年以内で評価額が 10 億ドル以上の企業をまだ芽の段階で連れて来られればなお良い。日本の経営者だけでなく、外国籍の経営者でも構わない。そういう企業を税制上の優遇を含めてどう引っ張ってくるのか、積極的に取り組んでいただけたらと思う。

(副会長) ビジョンについて意見はないが、これを基に今後しっかり具体的に取り組んでいくことが重要になってくると思う。

コロナに関する今後の状況に加えて、ロシアのウクライナ侵攻に伴う円安や物価の値上がりなど、難問が山積している。こうした中で産業構造が大きく変化してくることになる。川越市も日本も中小企業がほとんどであり、このビジョンを進行していくにあたってカギを握るのは、その中小企業が時代に合わせていかに変化できるかにあると思う。事業を再構築して、いかに時代に適応できるかということなので、官民一体になって、それに向かっていっていただけたらと思う。

さらに、経済の安全保障、食糧の安全保障といった大きなテーマも視野に入れながら、ビジョンをいかに推進していくかといった視点も必要ではないかと思う。

加えて、外部の人たちが「よし川越へ行って何かチャレンジしてみよう」という気になってもらえるような魅力の発信をいかにできるかが重要だと思う。

(会長) みなさまからいただいた意見や推進に向けての要望などについては、今後、ビジョンを推進していく過程で反映されていくと思う。今後は、審議会の中で進行状況を見ていくことになる。以上を勘案したうえで、川越市産業振興ビジョンは提出された原案のとおり決定してよろしいか。

(全委員) [異議なく了承]

(3) 答申について

事務局が資料に基づき説明。

(会長) すでにみなさまからさまざまな意見をいただいております、これらの内容については答申書に反映されているものと理解している。

については、答申書は提出された原案のとおり決定してよろしいか。

(全委員) [異議なく了承]

○その他

(事務局) 今後のスケジュールについて報告。

- ・市長へ答申（7月26日）
- ・公表（9月中旬） ※内部手続き等を経て、印刷製本したものが完成。